

相模國
相模川

往來停馬此踟蹰天下滔々豈獨吾河畔爲通名利路涪陵慙愧一樵夫

〔書言字考節用集一乾坤〕馬入川 馬入川 相州高坐大住兩郡之界

東鑑所謂相模川是也

〔東遊行囊抄十五〕馬入川 舟渡也。是相模川也。御上洛ノ時必船橋ヲ掛ラル、例アリト云々。此川上ヲ福島川ト云。此渡ノ東西ノ岸ニ町アリ。西馬入、東馬入ト云。是ヲ馬入ト號スル事ハ右大將頼卿ノ馬橋ヨリ落入テ死ス。ソレヨリシテ名也。ト里俗ノ謂也。

〔東海道名所圖會五〕馬入川 馬入村にあり。むかしは相模川といふ。水源は甲州猿橋より流る。此邊の大河也。東鑑に文治四年正月三浦介義澄浮橋を相模川に構へし事見ヘたり。○下

略

〔新編相模國風土記稿三〕相模川佐賀美 源ハ甲斐國都留郡富嶽ノ麓ヨリ湧出シ。上野原村ヨリ當國津久井縣名倉村ニ入高座愛甲、大住三郡ノ界ヲ東流シテ、末ハ高座大住兩郡ノ界ニテ海ニ入ル。水路凡十六里半。數ナリ。中流ル、下皆同ジ。濶七十間ヨリ百間餘ニ及ベリ。東海道ノ係ル所ニ渡津アリ。其邊ニテハ馬入川ト呼ブ。渡頭ノ村名ナリ。馬入此川國中ノ大河ガレバ、國名ヲ以テカク唱フルガラン。○中此川津久井縣ノ内ハ、兩岸高ケシテ、田間ノ用水ニ沃ギ難ク。高座、愛甲、大住等ノ郡中ニ至リテハ、漸土地平坦ガレバ、田間ニ引キ耕植スル所少クアリ。サレド屢水溢ノ患アレバ、所ニ堤防ヲ設ケテ其害ヲ防グ。又洪水ノ時、水流ノ變遷度々アリテ、今古相模川蹟ト唱ヘ川ノ兩邊ニ池ノ如水ヲ湛ヘシ所若干アリ。按ズルニ、古風土記殘本ニ、北限海老名川トアリ。今此川名聞エズ、高座郡海老名郷ハ、相模川ニ邊シタレバ、若クハ此川ノ一名ナリシモ知ベカラズ。

〔書言字考節用集一乾坤〕玉川 東鑑作多磨川、武州比企郡

〔倭訓栞多編十四〕たまがは 世に六の玉川。といふ。多くほめていぶ詞なり。武藏は多摩郡にあり。此川の水は玉をなして聯珠の如しといへり。

〔武藏國多摩川記〕甲斐國都留郡小菅村ハ、大菩薩嶺ヨリ武藏々境迄六里餘、大村ニテ其奥方ヨリ